

令和7年度持続可能な水産物消費拡大推進事業のうち さかなの日推進委員会運営事業実績報告書

1 事業の内容および実績

(1) 「さかなの日」公式HPの更新

- ・これまでに新着情報 633件の掲載

(令和4年10月末から掲載開始)

令和4年度 87件、令和5年度 182件、令和6年度 187件、令和7年度 177件 (1月末時点)
掲載希望事業者との調整、HP 運営会社との連絡・調整(月 15～20 回程度)を実施。



- ・水産庁からの依頼により、ページを改変

1) 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）で水産業の魅力発信告知用バナーをTOPページに掲載

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/press/gyosei/250521.html>



2) 大阪・関西万博終了後は「クロダイのおいしさ認知向上プロジェクト」のバナーに差替え



- ・「旬食予報」は、今が旬の魚を気象データとともに紹介する情報サービス。

季節ごとのおすすめ魚や特徴を知ること、魚食文化の継承と持続可能な消費を推進する取り組み。食卓をより豊かにし、サステナブルな食生活につなげる。誰もが手軽に旬の魚を楽しむための知識や情報を提供するコンテンツとして、「さかなの日」の取り組みと連携。

(本事業の予算は活用せず)

2 ノベルティの作成

- ・本年度、ハロー！プロジェクトのメンバーによる「さかなの日」応援隊第2期生として、7名が新たに任命されることとなった。水産庁からの依頼により、当初予定していたノベルティ制作は行わず、その予算を応援隊7名分の謝金（税込385,000円）へ振り替えて対応した。

任命式 2025年10月31日（金）水産庁にて

[illegible]

3 JGFAフィッシングキャンプ2025における「さかなの日」のPR

2025年5月11日（日）10:00～16:00、東京都江東区の東京夢の島マリナにて開催された「JGFAフィッシングキャンプ2025」に出展した。

出展ブースは、ハーレージャパン、テイルウォーク、アルファタックル、GIWORKS、チャーマスブース、水産庁「さかなの日」、マングローブスタジオ、ピュアフィッシングジャパン、舵社「ボート倶楽部」、DYFCの各社で、来場者数は約2,800名となった。

「釣りゲーム」や「ぬりえ」などの、子ども向けアクティビティを通じて来場した子どもたちや保護者にさかなの生態や魅力について情報発信を行い、大変好評を得た。また、ノベルティとして、ぬりえ 100 部とシール 100 部を配布した。併せて、(株)NKB が自社で作成した「さかなの日」ピンバッジを 250 個配布した。



4 2025台湾美食展「日本 美食館」の出展に係る調整

台湾全土の多彩な料理が集まる台湾最大級の食の祭典「台湾美食展」は、今年で34回目を迎え、テーマは「海鮮」となった。NKB台湾（本社：台北市、董事長：外谷敬之）は、2025年8月1日（金）～4日（月）に開催された本展において、「日本 美食館」をプロデュースすることとなった。

このため、本年度は「さかなの日」の展示ブースを設け、日本の水産物の魅力を台湾市場に向けて発信した。展示ブースでは、牡蠣やだしなどの試食体験を提供し、日本産水産物の品質・味わいを来場者に直接体験していただいた。

出展に向けた牡蠣の輸出手続き対応および生産者との各種調整業務を実施し、スムーズな出展運営に寄与した（出展に当たっては本事業の予算は活用せず。出展ブースでの「さかなの日」のPRの賃金のみ計上）。



5 水産庁との打合せ（対面：5月、6月、8月＋メール：随時）

- ・「さかなの日」の進め方や公式ウェブサイトの更新等について、随時、意見交換及び連絡を行った。

6 千野座長との打合せ（対面：7月、2月）

- ・「さかなの日」推進委員会の千野座長および水産庁と「さかなの日」の進め方等について意見交換を行った。また、開催を終えた「賛同メンバー交流会」での参加者からの主な意見や改善点についてもご報告し意見を伺った。

7 牡蠣－1グランプリでの「さかなの日」の周知（2月27日、28日）

- ・豊洲市場で開催された牡蠣－1グランプリの会場において、カキ養殖業者及び関連事業者に対し、「さかなの日」の趣旨である「さかな×サステナ」の趣旨説明を行うとともに、賛同メンバーへの参画を呼び掛けた。
（出展に当たっては本事業の予算は活用せず。出展ブースでの「さかなの日」のPRの賃金のみ計上）



8 「おにぎりの具材めぐり」における「さかなの日」の周知（3月13日、14日）

- ・瀬戸内海において高水温等の影響によるカキのへい死が発生している状況を踏まえ、消費者に生産者の取組への理解を深め、「食べて応援」を呼びかけるため、築地市場で開催された「おにぎりの具材めぐり」において、牡蠣－1グランプリ出場牡蠣を提供するとともに、「さかなの日」の趣旨を周知した。（出展に当たっては本事業の予算は活用せず。出展ブースでの「さかなの日」のPRの賃金のみ計上）

9 「さかなの日」における賛同メンバーに対する周知・案内

- ・本年度は以下の取組を実施した。

■＜令和7年度「さかなの日」賛同メンバー交流会＞

本年度は、九州会場と東京会場の2か所で開催。卸売業者や行政からの水産課担当者な

どを招き、現場の課題や取組みを共有。当社も出席し、設営準備を行うとともに、賛同メンバー同士で低・未利用魚の活用についてグループワークを実施した。あわせて出席者と「さかなの日」の取組及び課題について意見交換を行った。本社では、交流会開催に当たり、量販店やメディアに対し、周知を行った。

【九州会場】

日時：令和8年2月10日（火）

会場：福岡市鮮魚市場「市場会館」第1会議室

出席者：対面参加

- 1 水産庁から令和7年度「さかなの日」取組紹介
- 2 産地からの情報提供(各10分ずつ)
 - 1)株式会社福岡魚市場 開発部 加工課 課長 平野 喜代志
 - 2)宗像漁業協同組合 前組合長 桑村 勝士
 - 3)株式会社天洋丸 代表取締役社長 竹下 千代太
 - 4)岡山県水産課 福留 慶
 - 5)岡山県水産課 渡邊 翔
 - 6)大分県中部振興局農山漁村振興部水産班 主幹(総括)中川 彩子
- 3 賛同メンバーからの取組紹介(2分程度で出席者から紹介)
- 4 グループセッション(30分)
- 5 自由な意見交換(30分)

【東京会場】

日時：令和8年2月18日（水）13:30～

会場：農林水産省7階講堂

出席者：対面参加 157名、オンライン参加 25名、合計182名

- 1 水産庁から令和7年度「さかなの日」取組紹介
- 2 産地からの情報提供(各10分ずつ)
 - 1)株式会社海光物産 代表取締役社長 大野 和彦
 - 2)小田原の魚ブランド化・消費拡大協議会
(小田原市役所水産海浜課振興係) 見坊 俊明
 - 3)石川県水産課企画流通グループ 専門員 島田 拓土
 - 4)有限会社泉澤水産 代表取締役 泉澤 宏
 - 5)福井県高浜町産業振興課 主事 中村広花

3 賛同メンバーからの取組紹介(2分程度で出席者から紹介)

4 グループセッション(30分)

5 自由な意見交換(30分)



■＜令和7年度「さかなの日」推進委員会の実施＞

日時：令和8年3月16日（月）13:30～

会場：水産庁漁政部第3会議室及びリモート開催

出席者：

- ・一般社団法人離島振興地方創生協会 理事長 千野和利氏（座長）
- ・クックパッド株式会社 広報部 ニュース編集部 本部長 小竹貴子氏
- ・株式会社ぐるなび 専務執行役員 竹島美保氏
- ・株式会社イトーヨーカ堂 F&D事業部 鮮魚部 松本光司氏（湯山氏代理）
- ・キッズキッチン協会 事務局長 溝上宏氏

【ご報告】

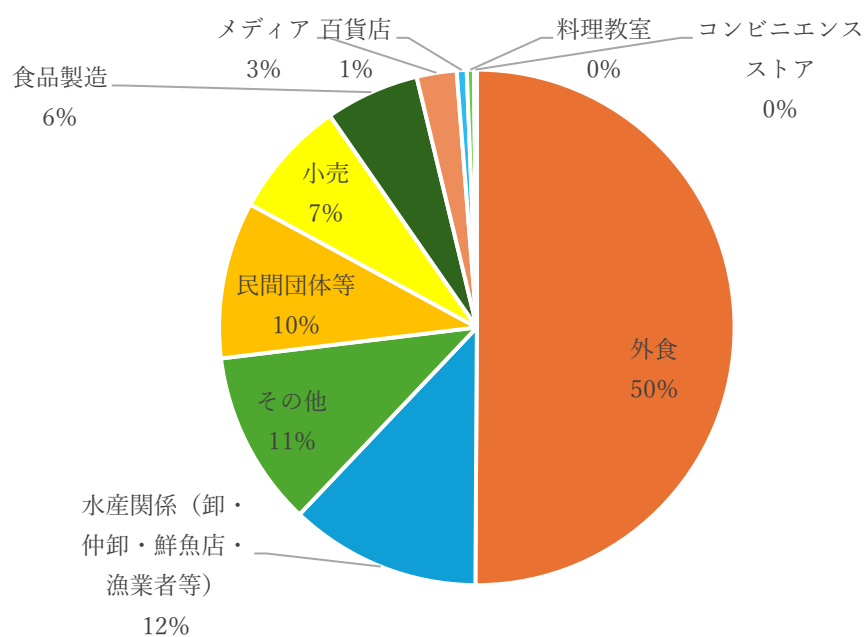
1) 「さかなの日」の関連記事について

毎月、クリッピング記事や日経テレコムを使って、「さかなの日」の関連記事をまとめて収集しました。別紙をご確認ください。

2) 「さかなの日」賛同メンバーについて

全体賛同数 1118社 ※令和8年2月末時点

▼業態別（内訳）



業態	社数
外食	560
水産関係 （卸・仲卸・鮮魚店・漁業者等）	134
その他	123
民間団体等	110
小売	83
食品製造	66
メディア	28
百貨店	7
料理教室	5
コンビニエンスストア	2
合計	1118

3)「さかなの日」の取組みについておもな PR 活動

- 7 月 全国スーパーマーケット協会で「さかなの日」PR
- 8 月 台湾美食店出展「さかなの日」出展
- 10 月 農水省主催「フードシフトセレクション」最終審査会において、
審査員 19 名に「さかなの日」PR・賛同メンバーのご案内をし、
「さかなの日」ピンバッジを配布
- 11 月 全国牡蠣協議会に「さかなの日」PR

8 総評

「さかなの日」の取組みも 4 年目となり、賛同メンバー数は令和 8 年 2 月末時点で 1,118 社まで増えました。前年度からさらに 100 社以上増えており、活動の輪が着実に広がっていることを実感しています。

本年度は新たな「さかなの日」応援隊として 7 名を任命しましたが、その謝金を確保するために予定していたノベルティ制作を見送るなど、現場での柔軟な予算調整が必要となりました。

また、九州と東京の 2 か所で開催した「賛同メンバー交流会」では、未利用魚の活用といった具体的なテーマで積極的な意見交換が行われました。1,100 社を超える規模になったからこそ、メンバー同士が情報交換をしたいというニーズは非常に高いと感じています。

当社としても様々なイベント等で「さかなの日」の周知を行ってきた結果、関心を寄せる事業者が増えている実感を持っています。

また、水産庁から「瀬戸内海でのカキのへい死を受け、消費者に今年の牡蠣はまずそうという印象が浸透し、風評被害にも苦しんでいる。食べて応援できないか。」という相談に対し、「牡蠣—1 グランプリ」や「おにぎりの具材めぐり」において、急遽、牡蠣のおいしさを情報発信することとなりました。賛同メンバーが増えることを通して、こうした産地の課題解決の場としても「さかなの日」の枠組みが有効であることを感じています。

来年度以降もこれまでの活動をベースに、イベントなどで私たちのできる範囲で、工夫しながら「さかなの日」の発信を続けていく方針です。

賛同メンバーの皆様としっかり連携し、現場での良い事例を共有・改善しながら、魚食の普及を継続的な取組みとして発展させていきたいと考えています。

以上